

# 県内の防災重点農業ため池は、881箇所 農業用ため池サポートセンター設置で安全対策の強化・徹底を!

9月30日から10月31日まで9月定例県議会が開催され、千田美津子県議は令和3年度決算特別委員会において、コロナ禍における医療体制と産科医療、災害対応など、県民のいのちとくらしを守る県政課題について取り上げ奮闘しました。



## 農林水産部

**防災重点農業ため池は県内881箇所 関係者が連携し、十分な安全対策を講じ、あらゆる想定に備えて検討を行って、**

千田美津子県議は、7月23日金

ヶ崎町のため池で、草刈り作業をして亡くなるという重大事故が発生したことから、農業用ため池の安全管理の現状等について質問。

これに対し、農村建設課総括課長は、農業用ため池は、全県で2,365箇所、管理者別では国等が86箇所、土地改良区は654箇所、個人1,375箇所、水利組合250箇所となっている。そのうち、防災重点農業ため池（注）は県内で881箇所であり、管理者別では、国等が63箇所、土地改良区308箇所、個人421箇所、水利組合等89箇所となつて、いると述べました。

千田県議は、防災重点農業ため池が881箇所と省内に多数存在し、さらに所有者、管理者も多様であることから、これまで以上に連携した安全対策が重要だと指摘。さらに、「農業用ため池サポートセンター」の設置が国から指導されおり、今後の取り組みにおいてもその設置が重要だと指摘。

農業用ため池

（注）防災重点農業ため池とは：決壊した場合に、浸水区域に家屋や公共施設が存在し、人的被害を与える恐れがあるため池のこと。

## 警察本部

**配偶者からの暴力の根絶と相談支援センター等との連携は**

岩手県土地改良設計協会などと農業用ため池対策チームを設置し、ため池の届け出等の周知ほか、ため池の防災・減災などの対策を図ってきた。ため池サポートセンターについては、他県の活動状況等を調査しその必要性について検討を行つていて、等と述べました。

千田県議は、配偶者からの暴力の実態について質問。「内閣府が今年公表した男女間における暴力の調査報告書によれば、暴力被害にあつた女性は、25.9%、男性は18.4%となつておらず、深刻なのは、女性の約10人に1人は何度も配偶者からの暴力被害を受けている。暴力の背景も複雑化・多様化している可能性があるが、どのように把握されているか。また、配偶者暴力相談支援センターとの連携はどうか」と質問。

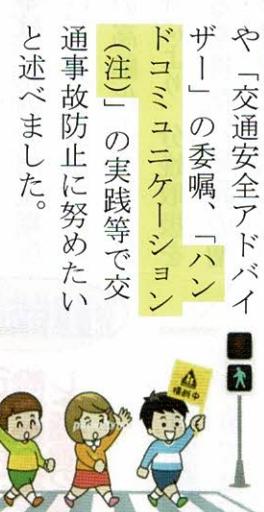
これに対し、生活安全部長は、

長は、「灾害時に自

千田県議は、要支援者名簿に基づく個別避難計画策定率は20.9%のみ連携して策定率の引き上げを

これに対し、生活安全部長は、「令和3年度の県警察における配偶者からの暴力事案の取り扱い件数は、前年比12件増の417件、検挙人員は前年比7人増の38人となつていて、外部から発

（注）ハンドコミュニケーションとは：信号機のない横断歩道において、歩行者は手を上げる等、横断する意思表示を行うこと。運転手は、横断歩道手前で一時停止後、手を差し出す等歩行者に横断するように意志表示を行うこと。



見が困難な家庭内において行われるため、潜在化しやすいとされている。また、配偶者暴力相談支援センターなど関係機関と連携して被害者との保護、一時避難の措置を講じるとともに、被害者の安全が確保されるまでの間、必要に応じて安全確認を行つていている」等と述べました。

千田県議は他に、横断歩道を歩行中の交通事故が多いことから、その対応策についても質問。

交通部長は、「安全モデル横断歩道」の指定や「交通安全アドバイザリー」の委嘱、「ハン

ドコミュニケーション」の実践等で交通事故防止に努めたいと述べました。

千田県議は、要支援者名簿に基づく個別避難計画の策定率が20.9%に止まつておらず、いざという時に置き去りになる危険性があることから、連携して一刻も早く策定率を引き上げるべきと指摘しました。



11月12日、水

沢・羽田地区では、地区振興会と自治協議会の共催で、岩手

大学名誉教授の齋藤徳美先生を講師に招き、「防災まちづくり講演会」が開催され、多くの住民の皆さんがあげ。皆、真剣な眼差しで耳を傾けておられ、千田美津子県議員も参加しました。

## 復興防災部

**県内の要支援者名簿に基づく個別避難計画策定率は20.9%のみ連携して策定率の引き上げを**

長は、「災害時に自力で避難することが難しい高齢者や障がい者等が安全に避難

出來るようにするた